

登別温泉

てくてく 散策 MAP

E 泉源公園



地獄谷から流れる温泉の川沿いから噴き出す間欠泉を活用した公園。約3時間の間隔で迫力ある音・湯気とともに、勢いよく噴きだす間欠泉を体感することができます。

D 大湯沼川天然足湯



大湯沼川探勝歩道に位置する大正地獄のすぐ近くに、大湯沼から溢れ出した温泉で天然足湯を楽しむことができます。自然の中で森林浴をしながら、散策の疲れを癒すことができます。

B 奥の湯



クッタラ火山の爆裂火口跡の一部で「ぶき」という円錐形の沼底から灰黒色の硫黄泉が噴出しています。沼の表面温度は約75℃~85℃と高く、特に沼の手前と中央付近の噴出が激しく、煮えたぎる湯釜のようにも見えます。

F 大正地獄



大正時代に起こった小爆発でできた、周囲約10mの湯沼です。湯量が周期的に増減を繰り返す間欠泉で、湯泥が突発的に噴出することがあります。また、湯の色が灰色、緑色、青色、黄色など七色に変わることも知られています。

G 鉄泉池



地獄谷のほぼ中央にある間欠泉で、湯煙をあげて煮えたぎる様子を近くで見ることができます。

C 日和山・大湯沼



今も白煙を上げる活火山。標高377mとさほど高くはないが、ガンコウラン、イソツジなどの高山植物の群落があり、山麓~中腹に広がる日和山原生野草園で7~9月初旬まで花を楽しめます。クッタラ火山が噴火した時の爆裂火口跡で、周囲約1kmのひょうたん型の湯沼です。沼底では、約130℃の硫黄泉が激しく噴出していて、表面の温度でも約40℃~50℃で灰黒色をしています。昔は底に堆積する硫黄を採取していました。

A 地獄谷



地獄谷は、クッタラ火山の噴火活動によりできた爆裂火口跡です。長径約450m、面積約11haで、谷に沿って数多くの湧出口や噴気孔があり、泡を立てて煮えたぎる風景が「鬼の棲む地獄」の由来となりました。また、ここから多種類の温泉が毎分約3,000ℓも湧き出しており、温泉街のホテルや旅館に給湯されています。



1 歓迎 親子鬼像



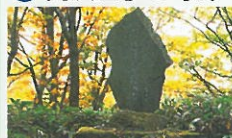
洞爺湖へむかう道沿いに立っている、手を取りあった青鬼の親子像。二人で仲良く観光客の皆さんをお出迎えしています。



ボク達が
登別温泉の見どころを
紹介するよ!

↑至 クッタラ湖

5 高浜虚子の句碑



日本を代表する俳人、高浜虚子が、大正8年に旭川で開かれたホトギス北海道俳句大会に來道した時の作品「轉(さえずり)や絶えず二三羽 こぼれとび」。舟見山遊歩道に昭和18年に建立されました。

6 薬師如来



文久元(1861)年、硫黄を採掘していた南部藩の家臣がお堂の下に湧く温泉で目を洗い、眼病が治ったと伝えられています。堂内にはお礼に寄進した石碑が安置され、「目の湯」として親しまれています。

2 栗林加寿子の歌碑



登別温泉発展の功労者である栗林五朔の夫人、加寿子は歌人としても有名で、舟見山遊歩道などに歌碑が4基あります。

3 登別パークサービスセンター



4 閻魔堂



からくり時間
①10:00②13:00③15:00
④17:00⑤20:00⑥21:00*
*⑥は5月~10月のみです。

7 登別ゲートウェイセンター (地域ガイド)



宿泊施設案内

- 1 登別石水亭
- 2 望楼NOGUCHI登別
- 3 御やど清水屋
- 4 名湯の宿パークホテル雅亭
- 5 旅亭花ゆら
- 6 滝本イン
- 7 第一滝本館
- 8 登別温泉郷滝乃家

- 9 ホテルまほろば
 - 10 玉乃湯
 - 11 祝いの宿登別グランドホテル
 - 12 ホテルゆもと登別
 - 13 登別万世閣
 - 14 花鐘亭はなや
- 共同浴場案内**
- 15 夢元さざり湯 (日帰り入浴のみ)

登別温泉で散策MAP

- P 駐車場
- 案内版
- トイレ
- 身障者トイレ
- ベンチ
- 展望ポイント

※上記距離および時間は、登別パークサービスセンターを起点とし、探歩の際における一般的な歩行速度を基にしております。



のぼりべつクマ牧場



シンボル鬼



温泉街の中には3ヶ所(蝦夷地民具こまつ前・藤喜屋横・味の大王横)に高さ50cmほどの鬼のモニュメントが設置されています。なんとも可愛らしく、愛嬌たっぷりな表情。カップルにおすすめの恋愛成就の鬼像、本を読んでいる合格祈願の鬼像もあります。

9 鬼祠



江戸時代から伝わるという「念仏鬼像」を祀った祠。両脇には身長3.5Mの赤鬼立像と身長2.2Mの青鬼座像が鎮座していて、記念写真の撮影スポットとしても人気を集めています。

10 湯かけ鬼蔵



霊験あらたかなる温泉の薬効により無病息災、諸病平癒を願って、鬼像にお湯をかけてください。

8 題目石



明治4(1871)年、伊達市妙栄寺を開いた僧、日進上人が、お題目を墨で書き上げた自然石。昔は水をかけると「南無妙法蓮華経」の文字が浮かび上がったそうです。

7 鉦作観音



江戸時代に全国を行脚した僧・円空上人が、寛文6(1666)年に鉦一本で作上げた観音像。山火事で時行方不明になり、後に黒焦げの姿で発見。地獄谷展望台に安置されています。